




ポジティブ・インパクト・ファイナンスの契約を締結 「サステナビリティ重点課題」への取り組みを評価

サッポロホールディングス（株）は、三井住友信託銀行（株）との間で、同社が提供する「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（資金用途を特定しない事業会社向け融資タイプ）」の契約を締結しました。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスとは、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEP FI）（注1）が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」（注2）および同実施ガイドラインに基づき、企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響とネガティブな影響）を包括的に分析・評価し、ポジティブな影響を与える活動の継続的な支援を目的とした融資です。企業の活動、製品、サービスによるSDGs達成への貢献度合いを評価指標として活用し、開示情報に基づきモニタリングを行うことが最大の特徴です。

当社は2019年12月に「サッポログループサステナビリティ方針」を策定するとともに、「グループ経営計画2024」においても「サステナビリティ経営の推進」を基本方針の一つに掲げています。「サステナビリティ重点課題と4つの約束」を軸として、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップのもとに、社会価値と経済価値の創出を両立させ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

本件締結にあたっては、当社のサステナビリティ重点課題を中心に、特にSDGsの目標達成に対しインパクトを与える以下のテーマについて定性的、定量的に評価されました。

テーマ	内容	目標と指標(KPI)	SDGs
『酒・食・飲』による潤いの提供	「酒・食・飲」を通じて、新しい価値を創造し、お客様に喜びと潤いを届ける。	<u>(a) 安全・安心な品質の提供</u> 目標 2030年に品質トラブルゼロを目指す 指標 (KPI) 品質トラブルを起こさないための取り組み状況 <u>(b) 新価値創造</u> 目標 新たな顧客価値を提供する 指標 (KPI) 新価値を創造する研究や製品開発の状況	  
社会との共栄	地域社会の一員として地域の発展や課題解決に貢献し、地域	<u>(a) 地域への貢献</u> 目標 行政やパートナーと連携した「まち	

	<p>の皆様やサプライヤーの皆様とともにより良い未来を創造する。</p>	<p>づくり」による地域の魅力向上</p> <p>指標 (KPI)</p> <p>まちづくりにおける行政等との連携による地域への貢献状況</p> <p>(b) 持続可能な調達の推進</p> <p>目標</p> <p>2030年までに全ての主要調達先がサステナビリティ調達ガイドラインを満たす (サッポロビール、ポッカサッポロ)</p> <p>指標 (KPI)</p> <p>サステナビリティ調達ガイドラインを満たす調達企業の割合</p>	
<p>環境保全</p>	<p>自然の恵みを未来に受け継ぐため、事業の各段階において環境保全に取り組み、従業員一人ひとりが主体的に環境活動を推進する。</p>	<p>(a) CO₂排出量の削減</p> <p>目標</p> <p>2050年に自社拠点でのCO₂排出量ゼロ</p> <p>指標 (KPI)</p> <p>CO₂削減量</p> <p>(b) 3Rの推進</p> <p>①水使用総量の削減</p> <p>目標</p> <p>生産工場における水使用総量を2030年までに2013年比で10%削減する (サッポロビール、ポッカサッポロ)</p> <p>指標 (KPI)</p> <p>サッポロビール、ポッカサッポロ生産拠点水使用量</p> <p>②循環型社会に対応した容器包装の使用拡大</p> <p>目標</p> <p>2050年に循環型社会に対応した容器の100%使用</p> <p>指標 (KPI)</p>	

		<p>循環型社会への対応容器浸透状況 (リデュース、素材代替の実績)</p> <p>③廃棄物再資源化率の向上</p> <p>目標 廃棄物再資源化率の向上に努め、 2030年までに主要工場(※)では 100%を実現する((※) サッポロビ ール、ポッカサッポロ)</p> <p>指標 (KPI) 廃棄物再資源化率 (サッポロビール、 ポッカサッポロ)</p> <p>④プラスチック使用量の削減</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2030年までに化石燃料由来のワン ウェイプラスチック製広告品類を 国内で原則廃止する (サッポロビ ール)・ 2030年までに国内製造ワインのペ ットボトルへのリサイクル原料の 使用割合を50%とする (サッポロ ビール)・ 2030年までに販売するPETボトル 商品においてリサイクル原料の使 用割合を50%とする (ポッカサッ ポロ) <p>指標 (KPI)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 国内における化石燃料由来のワン ウェイプラスチック製広告品類の 使用量 (サッポロビール)・ 国内製造ワインのペットボトルへ のリサイクル原料の使用割合 (サ ッポロビール)・ 販売するPETボトル商品における リサイクル原料の使用割合 (ポッ カサッポロ)	
--	--	--	--

		<p><u>(c) 気候変動に耐える品種開発</u></p> <p>目標 様々な地域で良質なビール原料の安定的な生産の実現</p> <p>指標 (KPI) 気候変動に耐える品種開発の進捗状況</p>	
--	--	--	--

これらの取り組みの進捗・成果は、当社が発行するサステナビリティレポート等（注3）によって開示します。

なお、本件の締結にあたり、株式会社日本格付研究所（代表取締役社長：高木 祥吉）より本件評価にかかる手続きのポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性について第三者意見（注4）を取得しております。

当社は本件の締結後も、「サッポログループ サステナビリティ方針」で定めた「大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。」を実現する事業活動を進めることで、持続可能な社会の実現を目指すSDGs達成に貢献していきます。

（注1） 国連環境計画（UNEP）は、1972年に「人間環境宣言」及び「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関です。UNEP FIは、UNEPと200以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展とESG（環境・社会・企業統治）への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています。

（注2） UNEP FIが2017年1月に策定。企業がSDGsの達成への貢献を開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導くものです。融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認します。

（注3） https://www.sapporoholdings.jp/csr/sustainability_book/pdf/sapporo_sustainability_book_2022.pdf
https://www.sapporoholdings.jp/ir/library/factbook/items/Indegradated%20report_2021.pdf

（注4） 株式会社日本格付研究所ウェブサイト <https://www.jcr.co.jp/>

以上